

文化薫道

◆其の四十四

つわものどもが夢のあと

宝満山を源とし、筑紫野市の南部を悠然と流れる宝満川にはいくつかの橋が架かっています。その中の一つに、筑紫駅前通と美咲をつなぐ「土島橋（しじまばし）」があります。

これは、かつてこのあたりが「侍島（しとう・さむらいじま）」と呼ばれていたことの名残だと言われています。南北朝から戦国時代にかけての記録には「侍島」という記載があり、このころには地名として使われていたことが分かります。地名のいわれはよく分かっていませんが、この地で戦国時代に合戦があったことが記録に残っています。豊後を本拠とする九州の有力大名、大友氏に、地元の豪族筑紫氏が果敢に挑んだ「侍島の合戦」です。

大友氏の大軍に対し、数で劣る筑紫氏は巧みに自分たちに有利な地形に誘い出して奇襲を仕掛け、大友氏の武將を討ち取ります。当時北部九州を席卷しつつあった大友氏に対して手痛い一撃を与えたのです。



「侍島の合戦」の模型(左が筑紫方、右が大友方)

この頃の筑紫氏は、鳥栖市にある勝尾城を本拠とし、那珂川市から鳥栖市に至る一円に勢力を張っていました。大友氏や鳥津氏、龍造寺氏といった戦国大名に囲まれながら、時によって従う相手を切り替えながら領地を守ってきました。

最近、小説やテレビドラマで流行する、小さな町工場が大企業相手に奮闘する物語の戦国時代版といってもいいのではないのでしょうか。

市歴史博物館では、この侍島の合戦の一場面を再現したミニチュア模型を展示しています。ぜひ一度足を運んでご覧いただければと思います。

問い合わせ先／文化財課

